

令和元年度第1回 福知山市立図書館協議会 議事録（要旨）

開催日時：令和元年6月11日15時30分～17時15分

開催場所：福知山市立図書館中央館 2階研修室

出席委員：谷垣委員長、仲野副委員長、青木委員、山路委員、荻野委員、塩見委員、安川委員、
善積委員、木村委員、神谷委員、芦田信委員

欠席委員：芦田敦委員

事務局：端野教育長、前田教育部長、浅田館長、森本次長、大槻次長、岸田係長

傍聴者：なし

議題：（1）平成30年度図書館事業報告について

（2）令和元年度図書館事業方針について

（3）平成31年度（令和元年度）社会教育の重点について

（4）「第2次福知山市子どもの読書活動推進計画」について

（5）その他（報告事項等）

①大江分館の移転リニューアルオープンについて

②雑誌スポンサー制度の申込み状況について

③新館オープン5周年記念 明智光秀コレクションの公開について

④図書の特集展示の紹介について

⑤中央館利用者アンケートの実施について

〈任命状の交付〉

〈端野教育長挨拶〉

〈谷垣委員長挨拶〉

〈委員自己紹介〉

（1）平成30年度図書館事業報告について

～資料1「平成30年度図書館事業報告」に基づき事務局から説明～

委員：利用者数や貸出数はこの報告でわかるが、それ以外に図書館ではユニークな催しをされている。図書館に来たことがない人も取り込めるよう実施されているタイムリーな特集展示についての説明をお願いしたい。

～「平成30年度特集展示一覧」に基づき、事務局から説明～

事務局：従来から様々な取組みを行っているものの、外に向けての発信ができていなかった。

昨年はタイムリーな話題の特集展示を多く行い、度々メディアに取り上げていただいた

た。今年度も、各機関との連携による共同展示やコラボ展示を多数行い、様々なテーマに関心を持っていただけるような展示を行っている。

委員：図書館に行けば色んな情報が手に入る正しいケースだと思う。「ライブラリー・オブ・ザ・イヤー」を受賞している図書館では、このような形で市民を呼び込んでいる。福知山と綾部の昔の写真展のときも、出版社に許可を得てパネル展示が行われた。見えないところでの職員の努力に感心している。

（２）令和元年度図書館事業方針について

～資料２「令和元年度図書館事業方針」に基づき事務局から説明～

委員：佐藤八重子記念子ども読書活動推進事業について、佐藤さんから市に、新たに５千万円の寄付を受けるとのことだが、図書館への配分はあるのか。

事務局：今回はふるさと納税により寄付された。報道にあったように、文化・スポーツや子どもへの支援など、広く使われることになる。図書館の佐藤八重子基金に積立てることはない。

委員：新任の委員もおられるので、「佐藤八重子記念子ども読書振興基金」について、説明をお願いしたい。

事務局：福知山に縁のある、東京在住の佐藤八重子さんという方がおられる。佐藤さんの父が福知山出身ということで、「福知山の子ども達のために、ぜひ役立ててほしい」と多額の寄付をいただいた。その寄付金を基金として積み立て、図書館で購入する児童書や、学校図書館の図書資料、今年度はブックスタートでプレゼントする絵本の購入等に充てている。

（３）平成３１年度（令和元年度）社会教育の重点について

～資料「平成３１年度社会教育の重点」に基づき事務局から説明～

事務局：「社会教育の重点」の図書館に関する内容は、これまで事務局で作成してきたが、今後は協議会に諮るので、委員の皆様に検討をお願いします。

（４）「第２次福知山市子どもの読書活動推進計画」について

事務局：本計画は平成２８年２月に策定されたもので、今年度は計画の４年目を迎える。平成２８年度以降、計画にある様々な取り組みを実施してきた。そのひとつとして、４カ月検診時にファースト・ブックをお渡しする「ブックスタート事業」を従来から行っており、平成３０年度からは「パパママ学級（妊産婦対象の教室：子ども政策室主催）」で赤ちゃんがお腹の中いる時からの読書の大切さや、妊娠中や出産に役に立つ本が図書館に多くあることをお伝えしている。また、待っていても図書館になかなか来られないので、各児童館へ読みきかせの出前講座を行っている。今年度は「おひさまひろば」へ出前講座も行った。

5月には京都共栄中学校1年生が来館され、久しぶりに中学校の社会見学を行った。

今年度も引き続き、様々な子どもの読書活動に取り組んでいく。

委員：各学校図書館との連携に関して、どのような取組みを行っているか。

事務局：毎年夏に、小学校図書館教育研究会の先生方の研修会を、図書館中央館で行っている。小学校社会見学についても、随時受入れを行っている。昨年度は市内14校の見学があり、今年度も既に何校か決定している。全小学校の見学が理想であるが、学校側も行事が多く、昨年度は見学希望日と図書館の行事が重なり、やむなく断った学校もある。早めの日程調整をお願いしたい。

委員：学校での読書活動について、朝読書など取組みの実態はどのようなものか。

委員：色んな所で朝読書が実施されている。朝読書の習慣がつくと、子どもが落ち着く傾向にある。市立図書館の社会見学は、主に2年生。昔に比べると図書館に行っている子どもが多いが、図書館に行く子と行かない子の差がある。子どもたちにとって、図書館の見学は大変良い機会。

委員：小中学校では朝読書で、活字離れを防ぐ取組みを行っている。中学校では生徒指導上、学校図書館を常時開放できないため、昼休みだけ開ける等の制限がある。小学校では一日中開放しているので、好きな子どもはよく出入りしている。一番ありがたいのは、市の予算で学校司書が配置され、図書の整理や特集展示などの啓発をいただいていること。中学校ブロックで1人配置され、大江ブロックでは一週間のうち、中学校に2日、三小学校に各1日来られている。学校司書がおられなかったら、学校図書館が錆びてしまうように思う。機能的に動いていただき、子どもたちが興味を持つような仕掛けを作っていただいております、市の運営に感謝している。

事務局：学校司書の横の繋がりをつくるため、市立図書館では平成29年度から、学校司書研修会を開催している。

委員：教育予算の縮減が続いているが、子どもたちに有益に働いているので、今後もぜひ続けてほしい。

委員：学校図書館に人がいるだけで、子どもの入りが全然違う。担任をしていると、子ども同士のトラブル対処や、学習指導をしたりと、学校図書館になかなか行けないので、学校司書の先生の存在は大変ありがたい。

委員：現職の先生が委員として2人おられるのは大変嬉しい。小学校では図書館担当の研修をされるとのことであつたが、できれば年に1度だけでも、小学校と中学校の図書館担当の先生が会う合同の会議を持ってほしい。中学校は小学校のことを、小学校は中学校のことを、お互いの現状をもっと知ることが大事ではないかと思う。市立図書館の職員も、その会議に入ってほしい。

委員：小学校と中学校では研究団体が違うが、すり合わせは可能と考えるので、検討したい。

委員：昨年、SLA（京都府学校図書館研究大会）が福知山で開催された。学校教育だけでなく、社会教育も絡んで創り上げていくことは大変だが、校長から声を上げてほしい。

委員：繋がりを作るよう、検討します。

（５）その他

①大江分館の移転リニューアルオープンについて

事務局：昨年度、大雨により被災し復旧を進めていた大江分館は、大江町総合会館の２階に移転し、４月２日にリニューアルオープンした。オープン初日は、通常の倍に相当する５１名の来館があり、１６８冊の貸出冊数があった。このまま順調にいくかと思っていたところ、最終的には前年４月よりも減となった。分館職員によると、場所がわからないとの声があるので、大江町内の防災無線を積極的に活用しておはなし会や新刊の案内を行い、さらなるＰＲを行っている。他にリニューアル効果として新しい自習機が入り、小中学生や高校生が自習に来てくれるようになった一方で、本は借りてもらえていないので、借りてもらえる努力をしていきたい。

委員：リニューアルに際して、地域特性を出した部分はあるか。

事務局：大江山の伝説や、山登りに来られる方などを意識した特集ができればと考えている。

委員：地域特性を生かした、人が来る工夫をお願いしたい。

②雑誌スポンサー制度の申込み状況について

～資料「雑誌スポンサー一覧」に基づき事務局から説明～

事務局：昨年１０月から、図書館に置いている雑誌のスポンサーに就いていただき、雑誌代金を負担いただき、雑誌購入費の節減となる制度を始めている。対象１９０雑誌のうち、６月１日時点で２７事業者６４雑誌（一覧のとおり）、年間約５５万円をスポンサー制度でご負担いただき、大きな貢献をいただいている。本日欠席の芦田敦嗣委員にも、アークホテル様から協力いただいている。府北部でこの制度を実施しているのは、宮津市と福知山市のみであり、多くは府南部で実施されている中、本市は府下でもトップクラスのスポンサー数と雑誌数となっている。

委員：新しい委員もおられるので、スポンサー制度について、詳しく説明を。

事務局：スポンサー事業者は図書館の雑誌の購入費用を負担いただく代わりに、その雑誌に広告を載せている。図書館に雑誌を寄付する形になるので、社会貢献といったＰＲ効果もあり、図書館とスポンサー事業者の相互利益が得られる制度である。雑誌の裏側と書棚に広告を掲載している。

委員：週刊誌と月刊誌では、期間が決まっているのか。

事務局：期間が異なる訳ではないが、週刊誌は発行数が多いため、負担も大きくなる。

委員：この制度は、広く広報されているのか。

事務局：制度開始時に、両丹日日新聞や京都新聞に取り上げてもらった。一社ずつ、個別にお願いに伺う場合もある。

委員：バックナンバーにも広告は載せているのか。

事務局：広告を掲載するのは、新刊のみとしている。年度毎の契約であり、今年3月末に更新の意向を確認したところ、4月以降も全事業者に引き続き協力いただいている。

③新刊オープン5周年記念 明智光秀コレクションの公開について

～資料「プレスリリース」に基づき事務局から説明～

事務局：中央館の新館オープン5周年を前に、「明智光秀コレクション」公開を行う。福知山城で長年保管していた資料を図書館に移管し、コレクションとして6月14日に一般公開するに伴い、セレモニーを行う。コレクション総数は559点に上り、様々な分野から幅広く集めており、明智光秀に関しては国内有数の規模となる。また、このセレモニーに合わせて福知山高校書道部に書道を寄贈いただくことになっている。セレモニーには、委員長と副委員長に出席いただき、市長と教育長も出席して除幕式を行う。その後、コレクションの解説講座を7月6日と13日に行う。

④図書の特集展示の紹介について

(事業報告の際に報告済み)

⑤中央館利用者アンケートの実施について

～資料「企画書」及び「アンケート案」に基づき事務局から説明～

事務局：本年6月で中央館新館オープン5周年を迎えることを機に、利用者が図書館をどのように利用されているのか、どのような要望があるのかを把握して、今後の図書館運営に活かすために、利用者アンケートを企画している。またアンケートを通じて、図書館ホームページや「としょかんだより」、WEBサービス、バリアフリーサービス等の周知を図るとともに、図書館への関心を高めることを目的としている。

委員：図書館に来られる方が対象となっているが、一番大事なのは、図書館に来られない方である。なぜ来られないのか、そういったことを考えた方が、グローバルな形でより多くの利用に繋がるのでは。今回は難しいかもしれないが。

委員：Q5の回答が一つでは偏りが出るので、正しい数字が掴みにくいのでは。回答を3つまでとし、幅を持たせてはどうか。数を重ねた方が、重点項目がわかりやすい。

委員：Q3及びQ4の「興味がない」という選択肢は、だめな印象がある。「利用したことがない」の方が、優しい印象を受ける。

委員：Q1の年齢は10代一括りでなく、中学生、高校生、18歳以上と分けた方が、結果を見る時にわかりやすいのでは。住所も福知山市を三和、夜久野、大江を地域に分け、周辺の地域は近隣だけを挙げては。職業で、家事専門の表現には違和感がある。バリアフリーサービスは全ての人が利用する対象ではないので、使ったことがある人に対して詳しく聞く方法にしてはどうか。アンケートの結果によって改善することがあると結果が利用できるのでは、様々な意見を聞くことが一番大事ではないかと思うので、

最後の自由意見欄を大きくし、具体的な感想や意見を聞くのが良いと思う。

委員：Q 5の選択肢を3つとした場合、3つ思い当たらなくてもどれかに○を付けることになり、正確な回答が得られないと思われるので、3つまでと幅を持たせては。

委員：住所は、字や学区単位で分け、市外を少なくして書込みにしておけば良いのでは。Q 4の「興味がない」について、「利用したことがない」と「使うつもりがない」の使い分けをどのようにするのか。「興味がない」に「使うつもりがない」意図が含まれているとすれば、「利用したことがない」という回答にはならないので、考える必要があるのでは。Q 6であれば、「不満」と「利用したことがない」は別になる。それから、Q 5を3つまでとしたとき、集計はどのようにする予定か。

事務局：クロス集計ができればよいが、今のところはそこまで考えていない。

委員：多回答とすると、集計結果からの決定が面倒になる。決定のことを考えて選択肢を1つにしているのであれば、それで良いのでは。

委員：Q 4に関しては先に出ていた意見のとおりだと思うが、興味がない訳ではないが、今は使う必要がない場合もある。「興味がない」に多く丸がつくと、必要がないと思う人が多くいることになる。バリアフリーサービスは良いことだと思うので、その支持が多くなるように質問を工夫しては。

委員：今日出た意見を踏まえて修正したものを、各委員に郵送等で送ってほしい。

委員：郵送される前に電子メールを頂ければ、上手くいけば社会調査の専門家に意見を聞ける可能性がある。

事務局：了承いたしました。多くの意見をいただいたが、さらに意見があれば一週間以内に事務局にお知らせ願います。

⑥今年度の協議会・自主研修会の開催予定について

⑦次回のテーマについて

委員：以前の協議会で、読みきかせの会やブックスタートを見に行ったことがある。今は机上で行っているが、実際はどうか、自主研修会で委員の皆さんに現場を見ていただき、討議をしてはどうか。

事務局：現場の見学は、事業が実施される日となるので、後日調整します。また、今年の自主研修会も例年通り年3回の開催でよろしいでしょうか。

委員：できればそうしたい。

事務局：自主研修会の日程は、後日設定します。また、第2回協議会は秋頃、第3回協議会は3月に開催を予定しています。

委員：この会議はできるだけ1時間半に収めたいと思う。遅くても2時間以内としたい。委員の皆様から発言いただきたかったが、次回にお願いします。

〈閉会挨拶：仲野副委員長〉